



オリジナルの額縁を掲げ、母親に記念写真を撮ってもらう子ども

八戸学院短期大学講師の佐貫巧さん、三沢第一幼稚園教諭の沼尾大伸さんが開く4〜10歳対象の現代芸術教室「アートのイズム」の本年度初回プログラムで、同美術館の事業の一環。絵だけでなく額縁の存在を意識して鑑賞することで視点をずらし、月館さんの作品構図に目を向けてもらうことを目指した。子どもたちは、佐貫さん、沼尾さんから説明を受け、保護者と一緒に作品60点を見て回った。その後制作に入り、毛糸やシールなどの素材を見比べながら、プラスチックの板に貼り付けるなどし、思い思いに装飾を

2015年に死去した八戸市出身の洋画家・月館れいさんの特別展が開かれている同市美術館で1日、子どもたちを対象に、月館さんの絵を鑑賞後、その体験を踏まえてオリジナル額縁をつくる芸術教室が開かれた。子どもたち10人が月館さん独自の色彩からイメージを膨らませるなどして、制作を楽しんだ。(新村菜穂)

八戸子どもが鑑賞と制作

故月館れいさん特別展

イメージ膨らませ額縁

加えた。白山台小2年の佐々木麗奈さん、長者小2年の長谷川真之さんは月館さんが描く空に注目。佐々木さんは

「空の色がきれいだったの
で、水色の紙を使いまし
た」、長谷川さんは「絵を
見て想像して、夜の空をテ
ーマにするアイデアが浮か

びました。イメージ通りに
作れました」と話した。
佐貫さんは「遊びながら
美術の楽しみ方を教えた
い」と語っていた。

東奥日報社提供

この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです